

各教科の正答率、問題の内容及び所見・解説

5 英語

(1) 正答率

問題	配点	正答		一部正答		誤答		無答		通過率 率 = 得点計 (%) (人数 × 配点)	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問題 1	2	179	50.1	0	0.0	178	49.9	0	0.0	50.1
	問題 2	2	330	92.4	0	0.0	27	7.6	0	0.0	92.4
	問題 3	2	305	85.4	0	0.0	52	14.6	0	0.0	85.4
	問題 4	2	122	34.2	0	0.0	234	65.5	1	0.3	34.2
	問題 5	2	99	27.7	0	0.0	258	72.3	0	0.0	27.7
	問題 6 (1)	3	311	87.1	6	1.7	38	10.6	2	0.6	88.0
	問題 6 (2)	3	315	88.2	4	1.1	31	8.7	7	2.0	88.9
	問題 6 (3)	3	124	34.7	75	21.0	143	40.1	15	4.2	45.9
	問題 7 (1)	3	259	72.5	0	0.0	98	27.5	0	0.0	72.5
	問題 7 (2)	3	172	48.2	0	0.0	185	51.8	0	0.0	48.2
問題 7 (3)	3	165	46.2	0	0.0	192	53.8	0	0.0	46.2	
2	A	3	262	73.4	11	3.1	76	21.3	8	2.2	75.3
	B	3	184	51.5	15	4.2	150	42.0	8	2.2	54.0
	C	3	308	86.3	9	2.5	33	9.2	7	2.0	87.8
	D	3	262	73.4	12	3.4	76	21.3	7	2.0	75.5
3	問 1	3	192	53.8	0	0.0	162	45.4	3	0.8	53.8
	問 2	3	229	64.1	0	0.0	127	35.6	1	0.3	64.1
	問 3	3	293	82.1	6	1.7	44	12.3	14	3.9	83.1
	問 4	4	74	20.7	56	15.7	126	35.3	101	28.3	29.1
	問 5	4	214	59.9	50	14.0	59	16.5	34	9.5	69.0
	問 6	3	186	52.1	0	0.0	165	46.2	6	1.7	52.1
4	問 1	3	217	60.8	0	0.0	138	38.7	2	0.6	60.8
	問 2	3	132	37.0	0	0.0	222	62.2	3	0.8	37.0
	問 3	4	14	3.9	88	24.6	161	45.1	94	26.3	15.1
	問 4	4	257	72.0	0	0.0	97	27.2	3	0.8	72.0
	問 5	4	253	70.9	0	0.0	98	27.5	6	1.7	70.9
	問 6	4	84	23.5	27	7.6	226	63.3	20	5.6	29.1
	問 7	4	39	10.9	57	16.0	183	51.3	78	21.8	20.3
	問 8	4	62	17.4	44	12.3	116	32.5	135	37.8	24.3
5		10	26	7.3	289	81.0	17	4.8	25	7.0	52.5

(小数第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

(2) 問題の内容

① 会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る。

問題 1 ~ 3 兄弟の写った写真や好きな季節、授業がおこなわれる教室の場所について等、日常的な場面の会話を聞いて、絵や図の中から、質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。

問題 4、5 友人の家に電話をする場面や、買い物の一場面といった、「ある場面」を説明する英文を聞いて、質問に対する答えとして適切な表現を選ぶ。

問題 6 Emmaは先週末に歴史博物館を訪れたことについて、Satoshiと会話をしている。その会話を聞き取り、内容について日本語で答える。

問題 7 ALTのMs. Keanが、登山の経験を通じて知ったパークボランティアの活動についてスピーチを

英語でおこなっている。そのスピーチを聞き取り、内容について質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。

2 留学生の友だちへバスケットボールの試合があることを伝えるためのメールを英語で作成することを想定し、日本語のメモをもとに、空欄にあてはまる語をそれぞれ書き、英語でメールを完成させる。

3 MiyukiとKateは、デパートでの職業体験プログラムに参加した。初めは、Miyukiは商品を案内することや外国人に英語で接客をすることが上手にできなかったが、KateやMr. Uedaの助言もあって最終日には英語で接客や商品の案内をすることができた。この英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る。

4 ArisaとMakoto、ALTのMs. Smithが、自転車の安全な利用について話をしている。Makotoが自転車の危険な運転について話をしたことをきっかけに、Arisaは自転車安全利用五則についてのスピーチをおこなうとともに、Ms. Smithはイギリスの自転車トレーニングプログラムについて生徒に話すこととなった。そして、授業後の3人の会話において、Makotoが自転車専用通行帯について紹介した上で、「道路ではみんなが、他の人に親切にすべきだ」と話した。このような3人の会話やスピーチ等から、あらすじや要点を読み取り、場面に応じて英語で適切に表現する。

5 When you are a high school student, what do you want to try? という質問に対して、2つの条件に従って5文以上の英文で書く。〔条件〕として、1文目はI want toに続けて〔質問〕に対する答えを書き、〔条件〕として、2文目以降はその理由が伝わるように4文以上で書くように指示されている。

(3) 所見・解説

1 会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る力をみようとしたものである。

問題1 会話を聞いて、その内容にあてはまる写真を選ぶ問題である。写真は駅で撮られたもので、同じくらい背が高いと言っているので、正答はイとなる。誤答としてアが多く、比較表現を正確に聞き取れなかったためと考えられる。

問題2 会話を聞いて、好きな季節を尋ねたアンケートの結果を表すグラフを選ぶ問題である。40人の生徒の半数が春を選んだので、正答はウとなる。

問題3 会話を聞いて、校舎の見取り図から英語の授業がおこなわれる教室はどこかを選ぶ問題である。その教室は2階にあり、図書室の隣であると言っているため、正答はアである。

問題4 CindyがKenに電話をしたが、Kenは不在で7時に帰ってくるとKenの母親に言われた場面である。CindyがKenの母に何と何を問われているので、「あとで電話をする」というエが正答となる。誤答としてウが多くみられたが、Cindyの発言かKenの母親の発言かを正確に理解できなかったためと考えられる。

問題5 気に入ったバッグをみつけたSakiが、店員に「これをください」と言っている場面である。店員がSakiに何と何を問われているので、「はい、他に何か必要ですか」というアが正答である。誤答としてイが多くみられたが、Sakiの発話内容を正確に理解できなかったためと考えられる。

問題6 EmmaとSatoshiの会話を聞き取り、日本語の質問に対して日本語で答える問題である。

(1) Emmaの発言“I came to Japan because I was interested in Japanese history.”から、正答は「日本の歴史」となる。

(2) Emmaの発言“we had lunch in the park.”から、正答は「公園」となる。

(3) Satoshiの発言“our teacher, Mr. Fukuda, told us to make a newspaper as homework.”から、正答は「新聞を作ること」となる。「新聞を読むこと」という誤答が多く、動詞を正確に聞き取れなかったためと考えられる。

問題7 英語による指示に従って、Ms. Keanのスピーチを聞き取り、内容について英語の質問に対する答えとして適切なものを選ぶ問題である。

(1) Ms. Keanが富士山に登った理由を問われているので、正答はC To see the morning sun.となる。

- (2) Ms. Kean が見たボランティア活動の種類を問われているので、正答はA Checking that the mountain roads were safe.となる。
- (3) スピーチの内容と合うものを問われているので、“We are helped by a lot of people like this, though we cannot see them. So, we should help other people even when no one sees us.”という発言から、正答はBとなる。

「聞くこと」の指導においては、問題1のような短めの英語を聞くことから始め、英語を聞き取り、絵や図表等の情報につなげることに慣れさせていくことが重要である。問題4や5においては、特定の場面での表現を正確に理解することが大切である。問題6や7のようなまとまりのある英語では、概要や要点を適切に把握するために、情報を正確にメモにとる等の工夫をして、必要な情報を聞き取る力を身に付けさせたい。

- 2 身近な場面に関する英文を完成させることを通じて、基本的な語の使い方や綴りが定着しているかを見ようとしたものである。

- A 「4月」April の綴りを問う問題である。無答は少なかったが、l と r の綴りの誤りが多く、l と r の発音の違いを含め、正確に書くことができるようにさせたい。
- B 「朝食」breakfast の綴りを問う問題である。誤答は綴りの誤りが大半であったが、「食べる」eat を書いたものもみられた。have に「食べる」という意味があることを含め、多義語の定着をしっかりと図りたい。
- C 「赤」red の綴りを問う問題である。この問題ではl と r を混同し led とする誤答は少なく、綴りは定着していることがわかる。
- D 「家族」family の綴りを問う問題である。誤答のほとんどが綴りの誤りで、その傾向として、m や l を2つ重ねてしまうものがみられた。基本的な語彙について正確に書くことのできる能力を身に付けさせたい。

- 3 まとまりのある英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る力と、基本的な語や文法項目が定着しているかを見ようとしたものである。

問1 話の流れをふまえて、本文中の A ~ D のいずれかに、After that, we learned more about socks from Mr. Ueda. という1文を補う問題である。After thatのthatの内容が、案内ができなくて悲しくなったということを示すことがわかれば、正答のCを選ぶことができる。

問2 本文の内容と合うように、空欄にあてはまる適切な1語を選ぶ問題である。「Miyukiの英語は完璧ではなかったが、日本語を話さない客に対して英語で対応できた」という意味がわかれば、「完璧な」に対応するI perfectが正答となる。他の選択肢も全て形容詞である。1つ1つ文脈とあわせて語彙の定着を図りたい。

問3 日本語の意味を参考に、英文の空欄にあてはまる適切な1語を書く問題である。May等が正答となる。「いらっしやいませ。」という店員が使う定型表現は受験生にとってもなじみがあるようで、多くの受験生が正しく解答できた。また、文頭の文字は大文字で書き始めることも意識させたい。

問4 本文の内容に関する英語の質問に英語で答える問題である。Miyukiがプログラム2日目に帰宅して何をしたかが問われており、本文中の“I opened my English textbook and read it again and again.”が質問に対する答えとなる箇所である。よって、She read her English textbook.等が正答となる。大問3の中では最も正答率の低かった問題であり、本文をそのまま書き写した誤答が目立った。適切な代名詞や時制にも注意を払う必要がある。

問5 本文の内容に関する日本語の質問に日本語で答える問題である。この問題は、最後の段落にあるMr. Uedaの“I love my job because ...”のbecause以下が答えとなる。多くの受験生が、「理由」が書かれている箇所をみつけて解答していたが、正答の「多くの人と素晴らしい時間をもてるから」を「多くの時間」と解答したものが少なかった。

問6 本文の内容と合う英文を選ぶ問題である。Miyukiはデパートでものを売ることが自分にとって良い経験だったと感じたと述べられている。全体を正しく読み取る力が試される本問では、ウが正答となる。誤りの選択肢を判断するためには、代名詞や、on the second dayやon the last day等の場面が転換する表現にも着目して読むことが大切である。

4 複数のまとまりのある英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取り、場面に応じて英語で適切に表現する力をみようとしたものである。

問1 会話の流れと合うように、空欄を補う文を選ぶ問題である。Makotoの“but you should be careful.”の発言から、正答はイ Bikes are useful in many waysとなる。

問2 本文1の内容と合うように、The young man who almost hit Makotoに続く最も適切なものを選ぶ問題である。Makotoの発言にある“I was walking on the sidewalk”や“Suddenly, a young man riding a bike almost hit me.”から、正答はア rode his bike on the sidewalk.となる。

問3 自転車が車道を通行するときのルールを示した絵と合うように、空欄に適切な英語を入れ、英文を完成させる問題である。自転車は左側通行であるという内容を、of the road.につなげて英文にするので、正答はRide on the left side等となる。誤答には、前置詞の間違いが多くみられた。また、Don't runningやWe should to ride、We must useやBike is等の誤答も多かった。

問4 Ms. Smithのスピーチのタイトルとして最も適切なものを選ぶ問題である。話の内容全体から考えて正答は、ウ Children's bike lessons in the UKとなるが、最も多かった誤答は、イ Checking a bike at bike shops in the UKであった。“At level 1, children learn how to ride and how to check a bike for safety at the age of nine.”のみに着目したものと考えられる。

問5 会話の流れと合うように、空欄に最も適切なものを選び、英文を完成させる問題である。空欄の次に標識の絵があり、絵の下の文が“Yes, it is a sign which shows bike lanes.”であるから、そこに示されている標識についての質問であると考えられるので、「見たことがあるか」と問うているエが正答となる。

問6 単語を正しい順序に並べかえて英文を完成させる問題である。正答はit is easier for them to rideである。It is (形容詞) for (人) to (動詞の原形) という表現を用いることで英文を完成させることができる。誤答には、to themやto easierのようにtoのあとに動詞をつなげられないものが多かった。また、to ride for themという誤答も多くみられたが、It is (形容詞) for (人) to (動詞の原形) という表現が定着していないためと考えられる。

問7 本文の内容に関する日本語の質問に日本語で答える問題である。正答例は、「道路上ではみんなが、他の人に親切にすべきだということ。」であるが、この問題は、Makotoの発言の中の“the most important thing that we have to remember is that we all should be kind to others on the road.”の文を読み取ることで正答を導き出すことができる。誤答には、交通ルールを守らなければならない等といったものが多くみられた。これはポスターや絵の印象が強く残っていることや、Ms. Smithの発言である“Let's follow the traffic rules.”を読み取ったものであると考えられる。また、正答の鍵となる文をみつけることはできていたが、意味を取り違えたものもみられた。

問8 自然な会話になるように空欄に4語以上の英語を書く問題である。空欄のある英文の次の発言に“I bought a cycling helmet.”とあることから、空欄のある英文は「そこで何を買ったのか」と質問している内容であることがわかる。そのため、正答としてはWhat did you buy等となる。誤答にはWhatで始まることは理解しているが、それに続く表現が正しく使えなかったものや、動詞が原形になっていないものがあつた。また、無答も多くみられた。

以上のような例を参考に、文法事項については言語活動と効果的に関連付けて定着を図り、まとまりをもって整理する習慣を身に付けさせたい。

5 与えられた〔条件〕に従い、基本的な語彙や文法を活用して考えを適切に表現できるかをみようとした問題である。解答の仕方として、は〔質問〕に対して正答例のように、I want toのあとに例えばstudy abroadのように続け、に同じ内容の繰り返しを避けて の理由を書くことがポイントである。

誤答としては、綴り字に関するものが多かった。例えばstudyをstadyと書いたり、clubをculbやclabと書いたりする等、よく用いる動詞や名詞に多くの誤りがみられた。また、I want to try study English.やI like play sports.等不定詞の用法に関する誤用も散見された。そのほか、受動態や現在完了に関する表現や、前置詞や接続詞の使い方等でも誤りがみられた。

基本的な語彙や文法事項を含め、適切な表現や構成で文を書けているかに注意したい。また、同じ内容の文を無用に繰り返すことなく、自分の考えや気持ち等が読み手に正しく伝わるように、文のつながり等に注意して一貫性のある文章を書く力を身に付けさせたい。